

総会 ご意見と返答

○2期 A さんのご意見

一大消費都市である東京の日本茶インストラクター東京都支部の行なう活動として一産地の団体の宣伝に特化して行なうべきではなく、東京都の人々に東京の優位性を活かした東京都民が要望する活動をし、啓蒙を行なうことで会員一人一人がお茶に対する力を付けていく支部を目指すべきだと思っております。

(3)(4)号議案については反対とします。

協会のお膝元の支部としてインストラクターのモデルとなる支部活動を期待しています。

●A さんへ都支部より

・3号議案について反対、とのご意見は「百円茶屋」への協力に関する部分でしょうか。

東京都支部では、鹿児島県茶業会議所主催の百円茶屋を年間数回請け負っています。

通常、イベントの請負については、事案ごとに役員で請負うか否かの判断をしますが、百円茶屋については、基本的に無条件でお引き受けしています。平成22年に百円茶屋が開催されて以降、平成23年度から、総会資料の【事業計画】もしくは【その他】の「具体的指針」の中に「百円茶屋への協力」として毎年記載され、承認されています。

ですので、この部分に関しては、現状維持、ということになります。

確かに、特定の産地の宣伝活動ではありますが、あくまでも主催者からの申込みベースであり、他の産地から同じような申込みがあれば、条件が合えば前向きに検討するお話になるかと思えます。また、会計報告をご覧頂くと明らかな通り、都支部の貴重な収入源でもあります。

・4号議案について反対とのことですので、資料でご説明した現状に対し、何か他の解決方法をお示しいただけますと幸いです。

この場で検討させていただきたく、宜しく願いいたします。

○2期 B さんのご意見

第4号議案について

①食育チーフをしていた者としては、この食育プロジェクト廃止が1月25日のチーフ会議にて役員会での決定事項として初めて伝えられたことを明記すべきと思う。

②令和3年度より都支部として請け負うことを停止、プロジェクトの終了とあるが、チーフ会議にて2020年度中に移行期間をとり、その開始時期を決めることを組合に提案することを回答いただいた。その事を食育事業、新業務フローに加えるべきと考える。

●B さんへ都支部より

①仰る通り、チーフの皆様にとっては唐突なお話しであったと思います。この点については、大変申し訳無く思っております。これは新役員会発足時から、スタッフ不足で疲弊し、機能不全に陥っている食育プロジェクトを何とか健全な運営に戻し、存続させたいという考え方で1年近く模索した結果、最終的に「このままのスタイルでの継続は難しい」と判断した為です。

この役員会の後半1年間で、きっちり移行を済ませて次の役員会にバトンタッチする為には、あの時、決断するしかありませんでした。予定していた、「食育チーフ公募説明会」をギリギリで中止としたのも、最後の最後まで「プロジェクト存続」を目指していたからです。組合食育事業を支えてくださったチーフの皆様が、この結論に対し、複雑な思いを抱かれるのは当然のことと思います。しかし、このまま食育プロジェクトを存続させれば、チーフの方々の負担増は避け得ないことであり、現チーフの皆様がそれを受け入れてくださったとしても将来的に行き詰まるのは明白です。

今回の提案については、都支部の将来の為に必要なことであると信じておりますが、ご不快な思いをなされたのであれば、重ねてお詫び申し上げます。

②移行期間は総会の結果がまとまり次第、今年の4月から来年3月までです。

チーフの方々のご意見も伺いながら、1年をかけて組合・都支部会員双方にとって良い方法を模索してゆきます。

○10期Cさんのご意見

『第4号議案 組合からの食育授業請負停止について』

役員のみなさま、いつもお世話になっております。

2020年度は、プロジェクトから個人受けへの移行期間とのことですが、現在、授業の再開時期が見えない状況です。

この機会に早急にチーフMTGを実施し（4月中）、各チーフに具体策を提案してもらい、新システムへの準備を整えるべきだと思います。間に合えば、1学期の授業からスタートしても良いと思います。つきましては、早急なチーフMTGの設定をお願い致します。

お役に立てたかわかりませんが、1年間、まとめ役を勤めさせて頂き、ありがとうございました。

●Cさんへ都支部より

食育チーフのまとめ役として、1年間本当にお世話になりました。この1年、様々な点で改革を行い、現場を取り纏めるチーフの皆様には、戸惑われることも多かったと思います。

特にCさんには、柔軟にご対応頂いたことへの心からの感謝を申し上げます。

今後の段取りについては仰る通りです。新しいやり方を試しては検証し、手直しする、ということの繰り返しになりますので、一つでも多く経験値を増やすことが最良の方法への近道だと思います。現チーフの皆様のご協力も不可欠ですので、宜しくお願い致します。

○10期Dさんのご意見

食育授業について

日本茶インストラクターやアドバイザーが専任で行う必要はないと思います。

家庭科先生に教えて、小学生の授業に採用してもらおう。

内容はインストラクター協会で作る。

(息子は熱湯に入れた渋い茶を学んできました。低温・中温・高温の3種だけで茶をいれる授業でOKと思う)

●Dさんへ都支部より

小学校の先生にお茶について学んでいただき、授業で伝えていただく事は、日本茶の普及という観点で非常に有効で効率的な方法であると思います。茶組合が将来的にそれを目標としていることは伺っております。インストラクターの支部活動として具体化するとするとハードルが高いと思われませんが、協会主導で、もしそういった動きが出てくれば、協力できる実力のある会員が数多くいるということが望ましく、都支部としては、会員の資質向上の後押しをしてゆきたいと考えます。

○16期Eさんから

【意見は特にない】に○をされていましたが、下記のようなコメントを頂きました。

私は他にもNPO法人に加盟していて、下部組織の役員を勤めた事がありますが、NPO法人はリーダーになりたがる人が出ず、存続が難しくなる事が度々ある事、共通の問題と感じております。

食育授業請負停止の苦渋の決断、ありがとうございます。

決断自体、大変な事だったと推察申し上げます。

自分は小学生への食育に向かないので今後も参加は致しませんが、日本茶の普及の為の活動は本格始動しようと考えておりますので、役員の皆様の「サポートする役割」に賛同致します。

●Eさんへ都支部より

役員会の決定にご賛同くださり、ありがとうございます。

いわゆる「報酬」を伴わない役員業務は、重くなり過ぎれば引き受け手がなくなるのは致し方なく、「日本茶の普及」という目的のため、自分の生活を犠牲にしても構わない、という方はなかなかいないと思われれます。しかし、役員になることで貴重な経験を積めることも確かです。そのバランスの取れるところを目指して、役員業務の整理をしています。